＜臨床研究実施のお知らせ＞

課題名：Image J のマクロ言語による自動抽出法を用いた黄斑部疾患手術前後の網膜構造変化の検討

1. 研究の目的（試料・情報の利用目的）：

黄斑円孔や網膜前膜は網膜の黄斑部に生じる疾患です。黄斑円孔とは中心窩を含む黄斑部網膜に断裂が生じることで著しい視機能低下を生じる疾患です。これまで組織学的観察以外では困難であった網膜微小構造の研究は光干渉断層計(OCT)が開発されたことで大きく進歩しており、黄斑円孔の病態解明も進んでいます。近年では OCT の進歩により光干渉断層血管撮影(OCTA)が開発されたことでこれまで眼底造影検査により行われていた網脈絡膜の微小循環構造の観察を非侵襲的に行えるようになってきており、中心窩無血管領域(FAZ)の評価も可能になりました。手術前の黄斑円孔における円孔直径、外境界膜断裂長、円孔周辺の限局性網膜剥離の有無などが手術後の視力や変視の程度に影響を与えると報告されています。また近年の研究では、手術後には FAZ は縮小することが報告されています。今回私達は OCTA 画像に ImageJ のマクロ言語を用いて自動的に FAZ や黄斑円孔底を描出する方法を開発しました。この方法を用いて黄斑部疾患手術前後に OCTA 検査を行った患者さんの黄斑部構造を観察し、術後治癒過程において黄斑部の網膜構造にどのような影響が生じるかを検討させていただきます。

2. 対象となる患者さんについて

① 対象となる患者さんの定義：黄斑部疾患患者様のうち当院で初回の硝子体手術を施行された方を対象といたします。

② 対象となる患者さんの数： 100 例

3. 研究に使用される調査項目・検査項目等について：

年齢、性別、視力、眼圧、眼軸長、光干渉断層計画像所見、光干渉断層血管撮影所見など

4. 研究期間：承認日 ～ 2026 年 02 月 28 日まで

5. 調査対象期間：2018 年 02 月 01 日 ～ 2024 年 08 月 31 日までの症例

6. 本研究における情報の保管場所と廃棄の方法

電子カルテ上のデータを用いて解析を行います。ID とパスワードでの管理し、

研究終了後はデータの破棄を行い、外部への情報の漏洩のないよう努めます。

7. 相談窓口：　部署名　　埼玉医科大学病院　眼科
電話番号　　049 - 276 - 1295

8. 研究責任者：所属機関名　　埼玉医科大学病院　眼科
氏名　　篠田　啓

☆本研究の調査対象に該当する方で「私に関する情報を研究に使ってほしくない。」とお考えの方は、相談窓口までご相談ください。ご自身以外の代理人からの申し出にも対応致します。